

## 《研修報告》

テーマ：1から学ぶ自治体財政

会場：都立多摩図書館セミナールーム

主催：NPO 法人多摩住民自治研究所

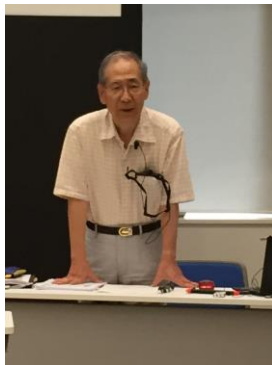
### [研修目的]

- ・自分の自治体の実際の財政状況はどうなっているか、それを知るために、自治体財政の基本的な構造、仕組みを学ぶ。
- ・自治体財政の基礎知識を幅広く学ぶことで、その基礎知識がどのような考え方・思想で作られているのか理解する。



## ●8月2日（木）午後1時～午後7時30分

講師 初村尤而氏



大阪市役所財務局などの勤務を経現在都市行政コンサルタント、一般社団法人大阪自治体問題研究所研究員。自治体行財政を在野で調査分析。著書「そもそもがわかる自治体の財政」他。

### 第1講 財政の役割と機能、予算・決算の仕組み

#### ・財政とは何か

日常生活は、商品の購入を始め様々なサービスで成り立っている。義務教育や介護サービスなど、企業が生産しないサービスをみんなで（＝国、自治体組織が）担い提供する仕組みが財政。言い換えれば、私たち市民は商品としてあるサービスと共に、自治体、国が無料で提供する材やサービスで暮らしている。その中心が「税」である。財政は、政治と経済の接点に位置する基本的な知識

- ・租税3要素…強制性、無償性、収入性
- ・財政民主主義…「財政」は国民の民主的コントロール下に置かれるという原則
- ・予算原則…総計予算主義、単一予算主義、会計年度独立の原則、予算限定の原則、予算事前議決の原則、予算公開の原則、予算の循環、予算編成の流れ、予算書、議会で議決される予算：（7つ）歳入歳出予算（款・項）、維持費、繰り越し明許費、債務負担行為、地方債、一時借入金、歳出予算の各項の経費の金額の流用、（予讃に関する説明書が提出される）、いろいろな収支

\*歳入歳出差引額＝「歳入総額－歳出総額」。赤字だと翌年度の歳入を繰り上げ充用

### 第2講 歳出予算の仕組み、歳入予算の仕組み

自治体は、住民管理・選挙管理・警察・消防・徴税などの行政活動を行うだけでなく、バス・電車・地下鉄・道路・住宅・上下水道などの社会基盤を整備し、保育・教育・医療・福祉・保険・介護などの公共サービスを提供する。さらに、治山・治水・防災・公害防止・環境保全・廃棄物処理などの自然と人間の物質環境の調整を行っている。また、地域における産業振興や雇用の確保、消費生活の保護なども地方自治の重要な仕事。

歳出は、自治体の仕事・事業の経費。歳出を見ればどんな公共サービスを行ったかがわかる。予算は、議決により支出の根拠とそれを限度に拘束する。

### 第3講 地方公営企業その他

自治体の会計は、一般会計と特別会計に分かれている。

一般会計とは、市税を主な収入財源として、行政運営の基本的な経費や事務事業を網羅して経理する会計。

特別会計とは、特定の事業を行う場合や特定の収入に基づいた事業を行う場合、その事業に係る経理を他の会計と区別する必要があるため、法律や条例に基づいて設置しているもの。\*国民健康保険事業、介護保険事業、後期高齢者医療、下水道事業など

### ●8月3日（金）午前9時15分～午後3時

講師 大和田一紘氏



東京都自然環境保全審議会委員 6期 12年、東京都環境科学研究所研究員、中央大学社会科学研究所客員研究員、埼玉大学、法政大学などを歴任。著書「習うより慣れろの市町村財政分析」他。

### 第5講

財政情報の大切さ、各資料の入手方法や時期、財政の仕組みを理解しわが町の財政を知る。

財政情報キーワード：わかりやすい、広報、ニセコ町、中学生、

主権者意識等々

- ・決算カードの見つけ方

総務省ホームページ地方財政状況調査関係資料決算カード、2001年（平成13年）から経年でみることができる。（統計は少なくとも10年間見る）

- ・財政分析活動・財政白書づくりの5つのキーワード

- ①地方分権一括法の施行 2000年4月により機関委任事務の廃止と財政情報の共有化
- ②夕張市の財政破綻 2007年3月と同時に地方自治体財政健全化法の制定 2007年6月
- ③地方財政における三権分立の現状→異なった立場からそれぞれ財政白書を作成
- ④情報技術の革新と高齢化社会の地域デビュー
- ⑤総務省の積極的な情報開示（決算カード、類似団体比較カード、「財政白書資料集」）

### 第6講

- ・どんな財政情報をどのように分析するか

①総務省の決算カードを中心に財政情報の開示→経年的に見ることで自治体の変化・変容を捉える

②類似団体比較カードと財政状況資料集を中心に財政情報の開示→比較することで自治体の財政運営の特徴を捉える

- ・市町村財政危機や悪化の原因はどこにあるのか

- ①国と地方の財政制度の不適切な関係（三割自治）
- ②経済のグローバル化（リーマンショック）
- ③バブル経済崩壊後の政策不在（失われた 20 年という閉塞的な時代）
- ④都道府県の経済・開発政策や財政制度（都道府県の長期計画や平成の大合併）
- ⑤市町村固有の社会状況や財政運営→決算カードや類似団体比較カード
- ・財政の健全化の手掛かりに類似団体比較カードを使う
  - 類似団体の指標は、身近な自治体の財政状況を反映したもので、地域特性を踏まえ、財政運営の改善を要するものであり、最低「並」のことが実現できるものとする。
  - ①財政運営の堅実性（やりくり上手）
  - ②財政運営の弾力性（経済変動・地域社会の変化）
  - ③住民ニーズに応える行政水準の向上と確保
- ・投資的経費を精査し、見直し、そのあり方を考える
  - ①社会資本の老朽化対策として既存の公共施設の法定耐用年数を調べる
  - ②自治体の公共施設白書の作成から公共施設等総合管理計画
- ・公債費比率、公債費負担比率、起債制限比率と実質公債費比率
  - ①地方財政健全化の矛盾を知る→演習
  - ②決算統計にみられる利率別現在高一覧から考えられること
  - ③目的別歳出の一般財源等（税等）からその重みを把握する→演習

## 第 7 講 財政用語に慣れる

決算カード他を使つての演習

### 補論

地方自治体とは何をするとおろか

- ①異常気象＝災害対策
- ②虐待＝児童福祉政策
- ③ブロック塀倒壊＝公共施設の管理

### [研修所見]

財政状況を分析する手段として、総務省が情報開示している「決算カード」を主として「類似団体比較カードと財政状況資料集類似団体比較カード」を使う。しかし、これらのカードは文章になって説明しているわけではないので、何を現し、示しているのかストリートにはわからない。

財政紐解く時の最大の難関は日常使わない「財政用語」である。だが、それらがその自治体の財政状況を判断するのに使われる。

自治体財政の基礎知識、その考え方と思想を理解知り、まちの財政を把握する手法演習に取り掛かることで、わがまちの財政を読むことができる。